

東北における観光復興に関する一考察

熊本大学工学部社会環境工学科 ○学生会員 園田一樹
熊本大学 正会員 田中尚人

1. はじめに

2016年4月14日・16日に発生した熊本地震により、熊本県は様々な分野で被害が確認されたが、その中でも観光地の被害に着目すると、一般的な地域で見られる被害だけでなく、風評被害等を含む経済的な被害が発生したことが分かった。本研究は、熊本地震からの復興の為、観光地の復興に着目し、東日本大震災における岩手県の4つの観光地を比較することで、三次被害からの復興を観光復興とし、構造と手法、過程を明らかにすることを目的とする。

2. 観光地の被害の特徴

定義した震災の被害分類を図-1のようにまとめた。例として2016年4月14日、16日に発生した熊本地震を調査し、熊本地震による観光地の被害の特徴を整理するために、熊本県の各市町村が作成する「観光統計」や熊本地震に関する資料の整理・分析や熊本地震や県庁職員へのヒアリング調査を行い、参考とした。

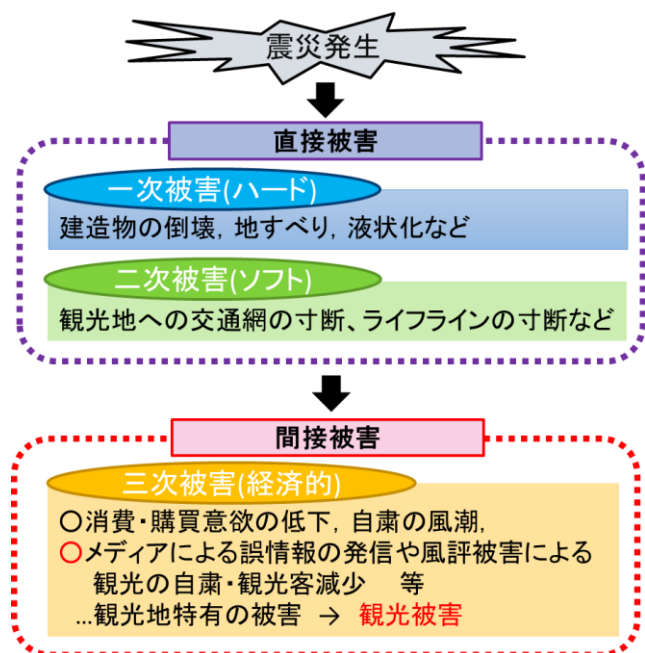


図-1 震災における被害の分類

3. 東日本大震災による観光地の被害の特徴

東日本大震災による対象地ごとの観光復興の違い

と共通点を探るため、岩手県内の観光協会に、震災後の対応行動を示した表-1や観光面での被害、観光復興の具体的なアクションについてヒアリング調査を行った。4市町村（宮古市、遠野市、花巻市、平泉町）を選定した主な理由は、内陸部と沿岸部で被害内容・規模に大きな違いが生じたためである。また、各市町村の災害担当課へメールでの質問や岩手県が作成する「観光統計」や東日本大震災に関する資料の整理、論文の閲読等より得た情報をもとに分析を行った。

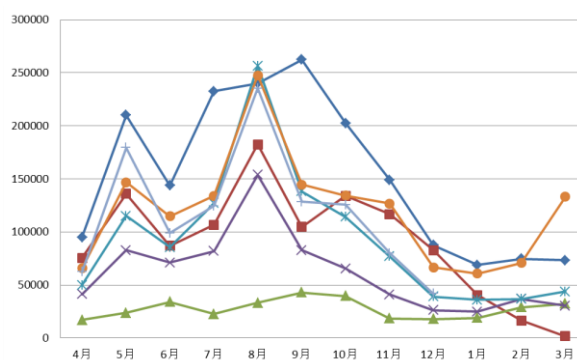


図-2 宮古市月別入込客推移

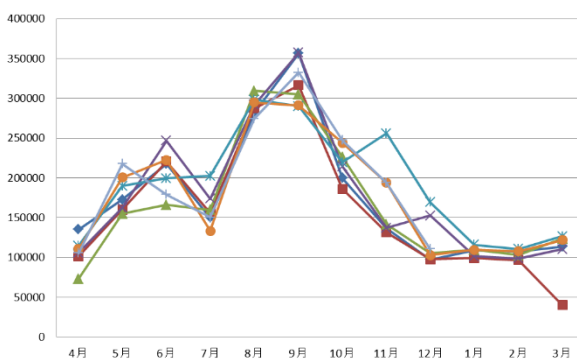


図-3 花巻市月別入込客推移

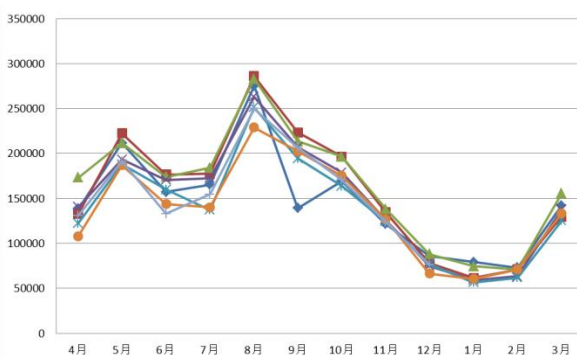


図-4 遠野市月別入込客推移

表-1 各観光協会の時間ごとの対応行動

	花巻市	遠野市	宮古市
当日	観光客の避難誘導 情報収集・提供(被害・交通・生存確認等) 観光客への対応(帰省ルートや案の提供、宿の手配等)	観光客の避難誘導 情報収集・提供(被害・交通・生存確認等) 観光客への対応(帰省ルートや案の提供、宿の手配等)	観光客の避難誘導、従業員の避難
1週間	情報収集・提供(被害・交通・生存確認等)	情報収集・提供(被害・交通・生存確認等) 遠野市・自衛隊と協力して後方支援地として沿岸部の支援 ボランティア希望者の振り分け	情報収集(被害・交通・生存確認等) 情報提供(主に訪問してきた観光客) ※勤務可能な社員のみで行った
1ヶ月	県外での物産販売を開始 来場客に遠野をPRするという地道な活動	県外での物産販売を開始 来場客に遠野をPRするという地道な活動 ボランティア希望者への対応	直営する沿岸部レストハウスや浄土ヶ浜の片づけ作業 復旧作業の継続
2ヶ月			市内の名産品・食品等の預かりを開始、 それに伴い販売の企画 市内の名産品・食品等の物産店頭での販売補助 宿不足が問題視され、解決に乗り出すが宿の流出、人手・後継者の不足により、困難に
3ヶ月			
4ヶ月	観光客の受け入れ(宿泊先一花巻温泉)を徐々に再開した。優先度は避難者>復興支援者>観光客		仮設の施設で浄土ヶ浜への観光客へ対応
6ヶ月	特産品のPRや県外への商談を再開 震災学習の提案	特産品のPRや県外への商談を再開 震災学習の提案	県外での物産販売 来場客に遠野をPRするという地道な活動 駅前イベントを開催 漁業組合と協力して「毛ガニイベント」を開催
9ヶ月			
1年			
1年1ヶ月	「岩手ディスティネーションキャンペーン」を開催 (4月1日～6月30日)	「岩手ディスティネーションキャンペーン」を開催 (4月1日～6月31日)	「岩手ディスティネーションキャンペーン」を開催 (4月1日～6月30日) → ボンネットバス等の手配
1年4ヶ月			直営のレストハウスを再オープン
3年	通常業務へ移行	通常業務へ移行	たろう観光ホテルが震災遺構に認定され、オーナーから市に譲渡された。その際、市が観光協会に維持管理等を委託。 たろう観光ホテル(震災遺構)の一般公開(4月1日)
2016. 4～			
2016. 5～	台湾から人気ブロガーを招待し、花巻の観光を海外観光客増加のためにPR		通常業務へ移行

ヒアリング調査及び図-2より、宮古市は沿岸地域のため、一次・二次被害が他地域に比べると甚大であり、震災による観光客減少の影響を色濃く受けた地域である事が明らかであり、入込客数も震災から5年経った今でも震災前の水準に戻ったとは言えない。

図-3より、花巻市は、県内唯一の空港や利便性の高い高速道路、在来線・新幹線の通る花巻駅・新花巻駅を有していることから、県内外のボランティアの行き来が活発であり、震災直後も入込客数の大幅な減少には至らなかった。

図-4より、遠野市は、沿岸被災地の後方支援地として、官民のみならず自衛隊とも協力して復旧・復興の支援を行っていたため、ボランティアが県内外から多く訪れ、活動の拠点としていたため、震災後にもかかわらず、入込客数の増加に繋がった。また花巻・遠野両市のこの時期の観光は、ボランティアの帰りに観光地に寄ってもらうような観光体系が主流であった。

4. 東日本大震災の観光復興に関する考察

震災後の各観光協会の対応行動を時系列に表-1のように整理することで、研究の目的である「観光復興」について明らかにした。比較的被害の小さかった花巻・遠野の両市は多少の違いこそあったが、震災後1ヶ月の時点で「県外での物産販売」や「来市者に観光PR」を開始しており、ボランティア+観光というよう

な手法であった。両市は、県内外に向けて観光PRが可能な状態であったが、県内外の沿岸地域が生活すらできない状況であったため、積極的な行動を自重し、日本全体においても同様の傾向が見られた。一方で宮古市は、協会自体は無事だったが、観光資源や交通手段が辛うじて営業可能な状態だったため、両市の上記のような行動へ移行するのに約半年を有した。また、たろう観光ホテルが震災遺構に認定され、「学ぶ防災」として新たな観光体系になり、集客源になっている。

被害規模や内容の違いが観光復興への具体的な取り組みの時期や内容に大きく作用することが明らかになった。

5. おわりに

東日本大震災を経験した岩手県の観光復興に関する考えや取り組みを理解し、岩手県の観光統計を読み解くことで、熊本地震から観光地がどのようにすればいち早く理想的に復興できるのか、その手がかりを掴むことができたのではないかと考えている。

[参考文献]

- 1) 戸田裕子：東日本大震災と観光産業，東日本大震災に関するサーベイ論文集，2013.3.
- 2) 関谷直也：「風評被害」の社会心理-「風評被害」の実態とそのメカニズム，災害情報（1）78-89，2003.3.
- 3) 井出明：日本におけるダークツーリズムの可能性，進化経済学論集 No16，2013.3.